

鳥取県立美術館がオープン！（美術館紹介資料）

これまで県立美術館が無かった鳥取県に、今年3月30日、待ちに待った鳥取県立美術館が倉吉市にオープンしました！鳥取市にある鳥取県立博物館で展示・保管していた美術作品と新しく集めた美術作品等が約1万点あり、**中学生のみなさんは、これらを紹介する「コレクション展」を無料観覧できます。**

美術館建物の設計は、世界的建築家・槇文彦(まき ふみひこ)氏が率いた槇総合計画事務所によるもの。作品の保護にとっては大敵である陽光を大胆に取り入れた美術館としては異例の設計で、**開放感あふれる空間**が大きな特徴です。3階まで吹抜けの「ひろま」や南側の歴史公園、山々を望む「展望テラス」、カフェ、キッズスペースなど無料エリアを多く設け、**日頃から利用できる開かれた場**としています。

また、「**毎日アートを楽しめる美術館**」として、展示がさらに楽しめるギャラリートークや音楽プレイリストの作成、触る特別鑑賞会、創作ワークショップ、イベントなどを実施しており、ふらっと気軽に参加できるものから事前申込制でじっくり取り組むものまであります。

県民のみなさんが展示や各種イベントなどに利用できる貸館スペースや、スタッフと一緒に運営するボランティア活動もあり、お客さんとして作品鑑賞をするだけではなくみんなで“つくる”美術館です！



美術館外観



ひろま

ユニークベニュー

歴史的建造物や文化施設等で、会議やイベント、レセプション等を開催することで、特別感を演出できる会場を**ユニークベニュー**といいます。

県立美術館では、ユニークベニューとして貸切で美術館を利用できます。

開放感溢れる空間を利用したファッションショーやレセプション、各種イベントの開催が可能です。



▲貸切で利用できる施設の1つ
(3階展望テラス)

ティーマ・プラス

TMOA+

(ティーマ・プラス)

TMOA＝鳥取県立美術館(Tottori Prefectural Museum Of Art)

「みんなでつくる美術館」を実現するためのボランティア制度。

美術館を拠点とした様々な活動に参画してもらい、来館者や美術館スタッフとの交流を通して新たな出会いや体験が得られます。

開館初年度の企画展

【開館記念「アート・オブ・ザ・リアル展」】(3/30-6/15)

県立美術館のオープニングを飾る開館記念展として、伊藤若冲(いとうじゃくちゅう)や円山応挙(まるやまおうきょ)、パブロ・ピカソ、クロード・モネなど、古今東西の様々なジャンルの名作約180点を一挙に公開した。



【夏休み企画「水木しげるの妖怪 百鬼夜行展」】(7/19-8/31)

まんが王国とっりの巨匠 水木しげる先生(境港市出身)が創作活動の参考として集めた資料や妖怪画100点以上を一挙公開したほか、鳥取会場ならではの特別な企画として山陰の妖怪画を展示した。

・8月2日くらし打吹まつりの実施、2万4千人が来場

県立美術館の開館を祝い、相乗効果で地域を盛り上げるため、例年の祭会場から場所を変えて、美術館前の広場で開催された。(写真右)

・8月9,10,11日、百鬼夜行展関連プログラム・ダンスパフォーマンス

県内外から集まった10代から60代のダンサーの出演、妖怪ブローチ・Tシャツづくり等



※外壁をスクリーンに見立て、祭のライブ映像を映した。



【The 花鳥画展 日本美術といきものたち】(10/11~11/24) お楽しみに!

- ・なぜ人は“いきもの”に惹かれるのでしょうか。アートの歴史は、動植物の形をかたどることに始まります。江戸時代を中心とした多彩な花鳥画作品を一堂に展示し、日本美術における動植物を主題とするアートの諸相とその魅力について紹介します。
- ・関連プログラム：県立博物館の学芸員が自然科学の眼で花鳥画を読み解くスペシャルトーク、展示作品に登場する動物たちの演目を行う落語イベント 等

【コネクションズ展】(令和8年2/7~3/22) お楽しみに!

- ・分断が深刻化する時代に、異なる領域やさまざまな文化を結びつけ、未知の世界と接続し、新たなつながりを作り出すことで美術表現を更新する新進気鋭のアーティストたちを招き、展覧会をつくりまします。

※写真 Mamoru(サウンドアーティスト)の「声を挙げ、絶やさない/NEVER BE NO VOICE」プロジェクトに欠かせない「声」を集めるため、簡単な呼吸法、リスニング、想像力等をもとにしたワークショップ。



めざす姿は「OPENNESS(オープンネス)！」

「OPENNESS！」とは、単に明るく開かれた空間という建築の特性にとどまらず、様々な表現活動ができ、多様な考え方を受け入れる美術館、子どもから大人まで、誰もが文化芸術を楽しめる美術館、文化や芸術を通じて地域とつながる美術館を表しています。

ミッション・ステートメント(使命)

鳥取県立美術館は、県立美術館の開館としては全国でほぼ最後となる美術館である一方、**最新の美術館**です。新しい時代の美術館として、みなさまをお迎えします。

○感動や安らぎを与えると同時に、主体的に考える機会を提供する美術館

利用者が美術をとおして感動や安らぎを得るだけでなく、自分や世界について思いをめぐらせる場となります。

○社会に向かって開かれ、多様な価値観を受け入れる美術館

誰に対しても開かれた公共の空間として、多様な価値観をもった人々が集い、互いの価値観を尊重しあいながら美術を享受する新たな賑わいの場を創り出します。

○与えられた価値に安住するのではなく、新しい価値を生み出していく美術館

美術をめぐって歴史の中で共有された価値を作品として**未来に伝える**と同時に、**新たな価値を生み出し、文化をさらに深めていく**原動力となります。

○すべての人にとって、美術を介した能動的な学びの場となる美術館

自ら問いを立てて、一つだけではない答えを求める学びの場、アート・ラーニング・ラボとしての機能を取り入れ、子どもから大人までが「アートを通じた学び」を深めることに関わります。

○地域に貢献し、県民の誇りとなる美術館

鳥取という土地と歴史が培った文化を世界に発信していく場所であると同時に、**地域の中核の美術館として、県民のみなさまが豊かな文化とともにある誇りの拠り所**となります。



アート・ラーニング・ラボ (Art Learning Lab)

すべての人(学校教育だけでなく、障がいの有無や美術ファンか否かを問わず)がアートを身近に感じて楽しむことを目指し、実践的な研究を行っています。

【プログラム例】

◆小学4年生全員招待

本物の作品を前に、美術館の専門員と県民ボランティアが案内役となり、気付いたこと感じたことを対話しながら作品鑑賞

◆カフェALLで井戸端会議

好きなアートのことや美術館活動のアイデアなど、お茶を飲みながら参加者全員でおしゃべり



鳥取県立美術館
ホームページ

現在行っている取組例

【誰もが安心して楽しめる美術館】

- ・「いっしょにみてみて水曜日」 毎週水曜日午前中は、小さなお子様連れ優先時間。
- ・「ひらいてみるみるコレクション」 毎月開催。美術館ってどんな場所？と気になっている中学生までを対象に、工作や身体を動かすワークショップと展示室での作品鑑賞。
- ・「えっほん！ はじまるよー」 毎月開催するキッズスペースでの絵本読み聞かせ。
- ・「障がいのある方のための特別鑑賞会」 休館日を活用し障がい特性に応じた鑑賞会。
- ・高齢者や障がいのある方・支援者の希望を聞きながら、アートに触れる機会の提供
手話による対話鑑賞、彫刻作品や工芸作品に触れる作品鑑賞(写真右)。
- ・作品解説の音声ガイド QRコードをスマホで読み取り、作品解説を音声で聞く。
- ・スマホの貸出(音声ガイド・ARアート用)、車いすの貸出、ベビーカーの貸出サービス



【誰もが使える、開かれた場所としての美術館】

- ・県民ギャラリー、スタジオ(ワークショップルーム)等の貸館利用
個人や団体、学校による作品発表やポスターセッション、ワークショップの開催等。
- ・ユニークベニュー(歴史的建造物や文化施設等で特別感を演出できる会場)としての利用
結婚式や成人式の写真撮影、ショートムービー撮影、レセプションパーティー、ハーブ演奏会等。
- ・サードプレイス 家でも学校・職場でもない「第三の居場所」として過ごせる無料スペース。



※ホテルセントパレス倉吉提供

【地域とつながり、県全体に広がる美術館】

- ・鳥取県アートミュージアム・デジタルビューイングによる作品紹介
県内のアート・まんが関連施設や所蔵作品の情報をタッチパネル式で紹介する大型モニターを設置し、県内には多彩な作品があることをゲーム感覚で楽しみながら知ってもらう(写真右)。
- ・お得な入館チケットによる県内周遊促進
鳥取砂丘砂の美術館と県立美術館「水木しげるの妖怪百鬼夜行展」のセット券、倉吉市内のミュージアム・観光施設を巡る共通入館券(なしっこ館、倉吉博物館等)。
- ・県内の音楽関係者や音楽好きな方々がつくるコレクションプレイリスト『コレプレ』
コレクション展の作品からインスピレーションを受けて作成した音楽プレイリスト。
- ・「ようこそ！ ティーモア市場」(ティーモアは鳥取県立美術館(Tottori Prefectural Museum Of Art))のこと
美術館プログラムとも連携しながら、県内外から訪れるみなさんを迎えるマーケット。飲食、作品、ワークショップ等。

